

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291500033		
法人名	有限会社UTASI		
事業所名	グループホーム九十九の里		
所在地	長崎県佐世保市鹿町町下歌ヶ浦802番地8		
自己評価作成日	平成 30年 12月 6日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 31年 1月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

消防署や推進会議等にもらった意見を参考にして改善している。(ロールカーテン、拡声器、誘導灯等) また職員の中途退職もなく退職後もパートで勤務されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは地域清掃への参加や回覧板の回覧、地域の保育園児との交流や、敬老会・クリスマス会などの行事を通じて地域との交流を積極的に行っている。ホームでは系列事業所とともに火災や災害、行方不明者の発生時には地域ぐるみで協力するネットワークとして「グループホームうたし・九十九の里SOSネットワーク」を構築している。また、定期的に介護教室を開催して認知症の理解に繋げるとともに、地域住民からの介護相談にアドバイスを行うなど、地域の認知症ケアの拠点として機能している。職場では必要に応じて職員と代表者が気軽に会話できる関係性があり、職員間の意思疎通も良好な職場環境であることが窺え、職員の研修参加時には時間外手当を支給するなど職員の人材育成においても支援に力を入れている。職員は入居者の小さな気づきも共有するよう努め、理念である「安心して暮らすということ」「自分らしく生きるとということ」を実践に活かしながら取り組まれているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名
グループホーム九十九の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関前、事務所に理念など掲げ、実践につなげている	ホームでは「安心して暮らすということ」「自分らしく生きるということ」という理念をもとに、入居者のペースを大切に支援に日々取り組んでいる。管理者は勤務経験が長くなることによる「慣れ」に留意しながら理念の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃や行事にも参加し、施設の代表も地区の役員を引き受けている	ホームでは地域清掃への参加や回覧板の回覧、地域の保育園児との交流や、敬老会・クリスマス会などの行事を通じて地域との交流が積極的に行われている。また、ホームと系列事業所合同で介護教室を開催し認知症の理解に繋げるとともに、地域住民からの介護方法についての相談にアドバイスを行うなどの取り組みがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一回、介護教室を行い、地域の皆さんへの声掛けを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事・入居者状況・スタッフ研修などの報告を得を行い推進委員の方々により意見や情報をもらい話し合っている	運営推進会議では、地区長・民生委員・社会福祉協議会職員・行政担当者・家族・地域住民等の参加があり、ホームの現状報告とともに活発な意見交換がなされている。会議では地区長による「命の授業」についての講話が行われ『いのち』を考える機会を設けるなど、特徴的な取り組みが窺える。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい情報をもらったりしている	運営推進会議には市の担当職員にも参加していただき、ホームの現状を伝えるとともに、ホームに関係する情報を得て運営に活かすよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や身体拘束を行わないケアをするためにスタッフで話し合いながらケアを行っている。夜間は玄関の施錠をしている	ホームでは調査日現在身体拘束は行われていない。ホーム内には11の身体拘束の対象となる具体的行為を記載した「身体拘束を廃止」という文書を掲示しており、職員間で共有を図っている。また、言葉掛けについても職員同士で注意し合うよう努めている。ホームでは身体拘束適正化委員会を定期的に開催するとともに、職員は身体拘束に関する研修等へ参加し理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声掛けや言葉使いが強い口調になったりするため、気づいた時は注意し合っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用されている人はいないが、研修などがある時は参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者さん、家族さんへ説明しながら不安や疑問を訪ね理解、納得をしてもらい契約を結んでいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんは日常会話や様子声掛けにより思いを引き出し、家族さんは面会時や自宅訪問時に聞いている	管理者及び職員は、家族が来訪した際には入居者の現状について説明を行うとともに、意見・要望を聞くよう努めている。遠方に暮らす家族については、電話やメールなどでやり取りを行っている。これまでに苦情に繋がった事例はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の会話の中で意見を聞いている	ホームでは日々の申し送りや月1回のケース会議等を通じて、入居者情報の共有のほかホーム運営に関する意見交換を行っている。必要に応じて職員と代表者が直接話をするなど、意思疎通が柔軟にできる環境であることが窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休など取りやすい		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な研修へ参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修などに参加し交流している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会し困っていること、不安な事など生活歴を聴きながら信頼関係が気付ける様に務めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所までに見学や面会などで希望、要望を聞き信頼関係が気付けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望、要望を聞き何が必要なのかを見極め支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の出来る事を見極めながら家事手伝いを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や自宅訪問時など状況を報告し情報を共有しともに本人を支えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望による外出や外泊など自宅への送迎や教会等へ行ったり手紙を書いてもらったりなどの支援を行っている	ホームでは入居時に本人や家族からこれまで関係があった方や場所などの具体的な情報についてヒアリングを行い、ホームでの暮らしに活かすよう努めている。職員は教会への付き添いや手紙の代筆を行うなど、入居者のこれまでの関係性が継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う人と席を近くにしたり、会話を楽しんでもらったり、レクリエーションや休養など一緒にできる事へ参加してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても必要に応じ出来る限り相談や支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の様子や会話などから希望や思いを見つけ本人の希望に添えるように検討している	ホームでは必要に応じて入居者の発する言葉の記録を行い、職員間で共有している。職員は認知症特有の症状を理解し、本人を否定せず見守りながら対応するよう努めている。訪問調査時点において発語が困難な入居者はいないが、今後も本人本位に検討していく意向にある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取りや会話の中から把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の過ごし方のパターンや気分の変化など一人一人の現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者一人一人に担当者を設け必要なケアや生活様子・ケアプランの見直しなど話し合い、日々のケース記録よりもモニタリングを行いケアプランを作成している	日々の介護記録にはケアプランの実施事項が分かりやすく記載されている。ホームでは配膳の手伝いや階段の昇降をケアプランの内容に取り入れるなど、入居者が生活していく中で自然にリハビリができるような工夫が窺えた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子に記入や業務日誌共有に必要な事を記入し情報を共有しケアプラン見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人にあったサービスが提供できるように話し合い取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握しながらできるだけ地域活動や行事などに参加し地域との交流を持つことができるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前よりかかりつけ医を出るだけ継続し、通院介助などの希望に沿った支援をしている	ホームでは、入居者個々の状況に応じて入居前のかかりつけ医を継続して利用できるよう配慮している。また、薬の副作用についての説明やホームへ薬を持って来ていただくなど、薬局との関係も構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診やかかりつけの担当看護師に状況報告、相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時介護サマリーを提出し退院時看護サマリーをもらい入院時の情報交換を行いスムーズに対応できるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についてはターミナルケアは行っていないため、入所契約時、十分な説明を行い契約を行っている	現在までのところホームでの看取りは行っていない。ホームは、本人の身体状況に応じてできる限りの支援を行う意向にあるが、点滴等の医療行為が必要となった場合には医療機関等での対応となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え研修や消防署より来てもらった際に指導を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回、消防署に依頼し火災訓練やホーム内の訓練も行っている	ホームでは避難訓練を毎月実施しており、日中及び夜間を想定した訓練も適宜行われている。避難誘導訓練では、災害時の一時避難場所である地域の公民館や民生委員宅まで退避する訓練を行っており、重度化した入居者を想定した搬送避難訓練も職員代替にて実施している。	ホームの裏側にある山林について、土砂崩れの危険性を考慮し災害を未然に防ぐための治山を行う必要があるものと思われる。関係者や行政機関等と協議し、必要な対策を講じることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人声掛けの仕方などに違いがあり、方言などで声掛けを行ったりしている本人希望やその人が分かりやすい声掛けをしている	管理者は入居者への言葉掛けが強い口調となっていないか注意を払っており、職員の感情のコントロールについて、アンガーマネジメント(怒りを予防し制御するための心理療法プログラム)を用いて対応できるよう努めている。方言や言葉遣いは入居者本人にあった使い方で対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや会話することで思いや希望が言えるような雰囲気づくりに心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康や食事、就寝など本人のペースで生活してもらっている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所にくしを置き鏡を見て髪を整えたり、服を選んでもらったりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたいものを聞きメニューを決めたり、配膳や茶碗洗い・茶碗拭きなど出来る事は手伝ってもらっている	ホームでは入居者の嗜好やアレルギー等の情報を家族や本人から聞き、その情報を活かした食事の提供がなされている。誕生日や行事の際にはおはぎやケーキなど本人の希望に沿ったものを提供するほか、家族の支援による外食など食事を楽しむ工夫が窺える。また、配膳や茶碗拭きなど入居者の残存能力を活かした取り組みも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事形態や量など把握し残食チェックなど行っている 10・15・19時と食事時以外にもお茶などの水分を飲用してもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い一人一人の能力に合わせ支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行っている。出来るだけ失禁なくトイレへ排泄できるように夜間にPトイレの使用もしている	職員は入居者の排泄状況について記録を行っており、排泄パターンを把握するとともに健康チェックにも繋げている。それによって入居者の排泄自立に繋がった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食事、腹部マッサージを行ったりしているが便秘の時は薬を服用してもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ジェットバスや入浴剤など使用し楽しんでもらっている	冬場の入浴日は週2回、夏場は週3日と設定しているが、汚染等があった際などは必要に応じてシャワー浴を実施されている。ホーム浴槽にはジェットバスがあり、希望に応じて入浴剤の使用も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれる前に夏はクーラーで冷やし冬は暖房で暖め入眠しやすいように温度調整やTVを見ながら休まれる人はオフタイマーにし、安心して気持ちよく休んでもらえるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録を通院時に記入し薬の変更や薬の説明書もありドクター指示や用量・副作用など理解できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力に応じた役割を持ち張り合いや楽しみのある日々を過ごしてもらえるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブに出かけたり家族の方と出かけたりにできるように支援している	ホームでは日光浴や花壇の水やりのほか、時季に応じて花見に行く機会などを設け、入居者の気分転換を図っている。夏には系列事業所と合同で地域の花火大会に合わせた焼き肉会を実施し、地域の方や家族も含めて多くの方が参加し交流する機会が設けられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	文化祭で買い物をして利されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族さんへ手紙を書いてもらったり電話の取次ぎを行ったりの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に空気清浄機をつけている。入居者さんの塗り絵など飾ったりテーブルに花を飾ったりしている	ホーム共用空間は家庭的な雰囲気、入居者と職員が一緒に「いきいき百歳体操」を行ったり、ソファでゆっくりと過ごされる様子が窺え、居心地良く過ごすことができている。また、設置されている空気清浄機はリコール対象製品ではないことを管理者が確認されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	今のソファでは話をしたり居眠りしたりされ、食堂のテーブルで過ごしたりと自分の好きな場所で過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用したタンスやテレビなど使い慣れた物を自室に置かれている	居室には入居者本人の使い慣れたものが持ち込まれており、入居時に火器類や刃物といった持ち込みができないものの説明を家族へ行って3ヶ月に1回エアコンフィルターの清掃も実施されている。尚、本人の使い勝手や動線を考慮し、日中ポータブルトイレを設置している居室があるが、必要に応じて目隠し等の検討がなされることに期待したい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	張り紙や目的などをつけ場所が分かるようにしたり、つたい歩きしやすいようにソファの位置を工夫している		